

## ムカデ（咬傷）

### 1. 概要

ムカデは肉食で、獲物を第一跗節の顎肢で咬んで毒腺から毒液を注入して麻痺させる。ちょっと触れてもすばやく咬むので、ヒトでも咬傷被害が発生する。夜行性のためとくに夜間に咬まれることが多い。日本にいるムカデで咬傷を起こすのは、トビズムカデ、アオズムカデ、アカズムカデ、タイワンオオムカデである。

毒成分の詳細は明らかではないが、hemolysine、saccharase、蛋白分解酵素、ヒスタミン、ヒアルロニダーゼ、セロトニン、p-benzoquinone 誘導体などである (1)

### 2. 毒性

毒成分は酸性。毒性は種類により異なる(2)

アカズムカデの毒性が最も強力で、セロトニンがほとんどなく、ヒスタミン

および局所透過性を高めるポリペプチドを含む(2)

症状はムカデの種類よりむしろ患者の個人差によるようだとする報告もある(4)

### 3. 症状

ほとんどが局所症状のみで、全身症状のすることはまれである

局所症状：激しい疼痛、しびれ、灼熱感、発赤、紅斑、腫脹

重症では咬傷部が潰瘍化する（リンパ管炎、リンパ節炎）

全身症状：発熱、頭痛、嘔吐、心悸亢進、めまい、譫妄

### 4. 処置

現場で可能な処置

アンモニア水塗布（直後であれば有効とされる）

抗ヒスタミン軟膏の塗布

医療機関での処置

重曹、硫酸マグネシウム飽和溶液の湿布

抗ヒスタミン剤含有ステロイド軟膏の塗布

疼痛には局麻剤とステロイド剤の皮内注射

セファランチン 10mg の注射が有効との報告もある

### 5. 確認事項

- 1) 確かにムカデかどうか
- 2) 咬まれた部位
- 3) 患者の状態：局所症状のみか全身症状もあるか

### 6. 情報提供時の要点

- 1) 痛みなどが激しい場合や全身症状がでている場合は受診を指示
- 2) 通常は数日中に治るが、潰瘍などひどい炎症を起こした場合は受診を指示

### 7. 中毒学的薬理作用

詳細は明らかではないが、発痛作用、血管透過性亢進作用、アレルギー作用があるとされる

## 8. 治療上の注意点

- 1) 一般に予後は良好で、数日中に治る
- 2) 拮抗剤、解毒剤はないので、対症療法

## 9. その他

(1)

トビズムカデ *Scolopendra subspinipes mutilans* Koch 体長約 8cm。

頭と頸は黄褐色、背板暗緑。本州、四国、九州、沖縄に産する

アオズムカデ *Scolopendra subspinipes japonica* Koch 体長約 6cm。

歩肢は 21 対、触覚および体の背面はすべて暗緑色。本州、四国、九州、  
沖縄に産する

アカズムカデ *Scolopendra subspinipes multidens* Newport 体長約 8cm。

触覚、頭、頸は赤褐色、背面は緑褐色。本州、四国、九州に産する

タイワンオオムカデ *Scolopendra morsitans* Linne 体長 12cm。

体色は黄褐、各背板後縁に沿って太い暗緑の帯があり、頭部と第一背板  
は鳶色。沖縄に産する

## 10. 参考文献

- (1) 森下哲夫、他：新寄生虫学、南山堂（1979）
- (2) 川瀬健二：日本医事新報、3263：143、1986
- (3) 福島英雄：臨床と研究、61：804～812、1984
- (4) Mohri S. et al：CUTIS、47：189～190、1991

## 11. 作成日

19900215 Ver. 1.00

ID M70269\_0100\_2